

富山県内の膵癌腹腔洗浄細胞診に関するアンケート調査報告

◎折田 恵¹⁾、小椋 恵利¹⁾、橋本 亜紀子¹⁾、池田 和人¹⁾、吉田 侑生¹⁾、田近 洋介¹⁾
国立大学法人 富山大学附属病院¹⁾

(はじめに)

現行の膵癌取り扱い規約では腹腔洗浄細胞診(以下CY)陽性がM1となり、切除可能性分類に大きな影響を受ける因子と定義付けられた。しかしながら、CYの処理方法や報告様式が各施設で統一性がないこと、擬陽性(class III, class IV)の意義が不明である。

今回の研究の目的は、CYにおける処理方法から診断の標準化であり、さらに診断に関してはその細胞所見のスコアリングシステムを策定することである。その第一段階として各施設のCYの処理方法を調査し、現状の把握を行った。

(方法)

膵癌のCYを施行している富山県内の各施設を対象に、検体処理法および標本染色(染色数・種類・方法等)のアンケート調査を行った。

(まとめ)

今回、日本臨床細胞学会と日本膵臓学会合同の膵癌腹腔洗浄細胞診標準化ワーキンググループの検討課題の項目であ

るCY処理方法に関して、富山県内におけるアンケート調査報告を行った。その結果、県内の各施設のCY処理方法が明らかになり、統一性がないことがわかった。今後は、アンケート調査の全国への拡大およびCY診断の報告様式や診断一致率に関しての調査を行い、その標準化を目指す。